



DAIHATSU



2015年8月20日

ダイハツ、アセアン向け次世代エンジンを投入 ～インドネシア、マレーシアで展開～

ダイハツ工業（株）（以下ダイハツ）はアセアン向け次世代エンジンを新開発し、インドネシア、マレーシアで投入する。インドネシアにおいては、ダイハツのインドネシアの子会社であるアストラ・ダイハツ・モーター（以下 ADM）が先般発表した「セニア（XENIA）」に搭載した。

新型エンジンは「セニア」および、ADMが生産するトヨタ自動車（株）（以下トヨタ）ブランドの「アバンザ（AVANZA）」に搭載する「1NR-VEエンジン（1.3L）」と、「アバンザ」に搭載する「2NR-VEエンジン（1.5L）」の2種類。現地調達部品の採用拡大などにより、大幅な低コスト化を実現したほか、デュアルVVT-i^{*}などを採用した高性能低燃費エンジンとなっている。

新型エンジンの開発は、ベース部分をダイハツとトヨタが共同開発し、FR仕様への適合についてはダイハツが独自で実施。新型エンジンは、ADMカラワンエンジン工場の新ラインで生産する。同ラインはダイハツが培ってきた生産コンセプト「シンプル・スリム・コンパクト（SSC）」を導入した最新鋭の生産ラインとなっている。

今後様々なバリエーションへの発展を図ると共に、マレーシアの現地合弁会社「プロドゥア」の車両にも搭載する。マレーシアでは、2016年年央に稼動予定の新エンジン会社で生産し、この工場にもSSCのコンセプトを採用する。ダイハツではこの新型エンジンを、アセアン向け次世代エンジンとして位置づけ、同地域での競争力強化を推進する。

※VVT-iはトヨタ自動車(株)の登録商標です。

【カラワンエンジン工場概要】

所在地：西ジャワ州カラワン

操業開始：2006年11月

生産品目：エンジン、鋳造部品

用地面積：約17.7万㎡

建屋面積：約8.5万㎡（新生産ライン稼働後）

生産能力：53万基